

かぜのきざし

2013 MARCH

風の萌

特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・
市民全国ネットワーク機関紙

第021号

2013年3月15日

安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造



第19回の全国の集いの成功を目指して、新潟の実行委員会(約60人)と事務局は全力をあげて準備に追われています。

お陰様で基調シンポジウムやテーマ別企画の講師の先生方も8割方決定し、新しい手法にチャレンジする実践交流会の演題募集も間近に迫っています。

さて、なんととっても基調シンポジウムは、メインテーマを各界の皆さんと、一方政策から語り合うこと

だと思っています。そこで基調シンポジウムを2本立て(カプセルとコア)で1本に企画しました。カプセルはケアの現場、コアは国の医療政策に対応します。

ケアの現場は現在在宅医療を先導している国立長寿医療研究センター長大島伸一さんを中心に、政策では慶応大学の権丈善一さんと厚労省社会保障審議官の唐澤剛さんをお願いしています。

実践交流会については次

頁で担当の金井秀樹さんがアツピールします。

テーマ別企画は、包括ケアを深く掘り下げ、時には深刻な場面を想定しつつプログラムを鋭意詰めているところ

第19回全国の集いin新潟2013 9月22日(日)23日(月)祝朱鷺メッセコンベンションセンター 雪割草! みんなのケアで咲かせよう 包括ケアのある暮らしを目指して

第19回 全国の集いin新潟2013 大会長 黒岩 卓夫

です。すでに決まっているゲストの皆さんを折込みのPR用のリーフレットに紹介させていただきます。

さらに全国の集いのオアシスでもある夜の懇親会は、朱鷺メッセコンベンションセンターに隣接するホテル日航新潟で行ないます。新潟県が明治以来日本の米蔵であったこと、日本の交流文化の伝承者でもあった北前船の寄港地な

ど豊かな歴史を背景に、おもてなしと交流の場にしたいと計画中です。

最後に特筆すべきは、ネットワークの名称にも組み込まれている「市民」として「まちのお茶の間運動」で有名な河田珪子さんと市民の皆さんの企画参加があります。

また2日目は全て市民公開(事前チケット1000円)かつ新潟市との共催となりました。広く市民・県民からの参加が期待されます。

どうぞ全国から、地元からの多数の参加をお願いして御紹介にさせていただきます。

NPO在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
安心して子育てができ 老いても障がいがあっても 自分らしく暮らすことができる コミュニティーの創造

第19回全国の集いin新潟2013



雪割草!

みんなのケアで咲かせよう

~包括ケアのある暮らしを目指して~

開催日

平成25年9月22日(日)・23日(月祝)

会場

朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター

大会長 : 黒岩 卓夫 医療法人社団 萌会 理事長
副大会長 : 上村 伯人 上村医院 院長
斎藤 忠雄 新潟内科クリニック 院長
吉原 文雄 新潟県立津川病院 院長
小山 剛 高齢者総合ケアセンター 代表
実行委員長 : 堀田 真一 瑞穂クリニック 院長
副実行委員長 : 五十嵐 謙一 五十嵐病院 院長

大会事務局
〒949-7302
新潟県新潟市中央区330-5 萌会新潟県診療所
TEL 025-788-0880 FAX 025-777-5866
E-mail zaitakunet2013@moegien.jp
http://homecare-niigata2013.geo.jp/
担当 事務局 山本 潤子

2日目のプログラム（ほぼ決定されていますが一部暫定案です）より市民公開向けのシンポジウムを多く企画いたしました。福田大会実行委員長をはじめ、メンバーの企画について、その一部を紹介をさせていただきます。

（平成29年12月12日開催）

[illegible]

問う時代の到来です。殆ど
の人は己の死期な
ど意識せ

日本でも在宅緩和ケアに携わる人が増え市民にも認知されるようになり、末期癌患者さんの在宅療養生活・看取りが可能となりました。漸く人生の終末期を選択できるようになり、生き方の質を

新潟大会 実行委員長
 潟東クリニツク
 福田 喜一

「癌末期だからこそ、
安らかに豊かな死を
迎えたい」

会場…メインホールA
9時～11時35分

ず平均寿命に近い天寿を全うできる感覚で暮らしている。しかし癌の告知は何の前触れもなく突然訪れる。生に執着し助かると信じ癌と闘い敗れ、或いは既に闘う術もない末期癌状態で発見され、逃れようのない死の宣告が襲う。もっと長く生きたいと願う末期癌の方達が自宅であらかで豊かな死を迎えるために、人の人生の終焉に携わる者として何をすべきなのか考える必要があります。患者さん本人、在宅療養を支える家族、介護者のケアを含めて、全人的ケアの立場から「看取り」を見つめ直してみたいと思います。シンポジストには、末期癌の訪問診療に特化した医師塚田裕子さん。在宅ホスピスケアの先駆者であるケアーズ白十字訪問看護ステーション統括所長秋山

会場	メインホールA
時間	450
	336
8:00	
9:00	《シンポジウム》 看取り ～臨末期だからこそ、安 らかに豊かな死を迎えたい～ 【座長】 福田 喜一 (海老クリニック院長) 【シンポジスト】 塚田 裕子 (在宅ケアクリニック 川津崎院長) 秋山 正子 (ケアーズ白十字訪問看護 ステーション統括所長) 宮林 幸江 (日本グリーフケア協会 会長・横浜市和大学教授) 佐藤 雅彦 (学心寺住持・ 大正大学非常勤講師)
11:35	



2012年は団塊の世代が65歳に到達し、そして2025年にはそのすべてが75歳以上となる超高齢化社会、さらに2030

座長
新潟大会 副大会長

斎藤内科クリニック
斎藤 忠雄

「都市型在宅医療」について

2日目
会場…302B
13時～15時30分

B

13:00	＜シンポジウム＞ 都市型在宅医療について
	【座長】 斎藤 忠雄 (斎藤内科クリニック院長)
	【基調講演】 堂島 伸治 (医療法人社団協栄会 どうたれ内科診療所院長)
	【シンポジスト】 新田 國夫 (医療法人社団つし合会 つしが理事長・全国在宅医療支援部会副会長)
	井上 多鶴子 (新橋区医師会会長・高齢者看護ステーション理事長)
	田中 尚輝 (NPO法人市民福祉団体 全国協議会専務理事)
15:30	

正子さん。遺族の悼み・悲嘆をケアする日本グリーフケア協会会長宮林幸江さん。生前末期癌患者さんを訪れ宗教家として何が出来たのか問い続

けている浄心寺住職佐藤雅彦さん。以上4名の方より専門的立場からご講演頂き、皆様とともに考えてみたいと思います。

年には約47万人の方の死に場所がなくなるという統計から、これまでの20世紀型医療から高齢者医療へと転換し、「24時間のあんしん」と「すまい」を整備することが必要となります。人口数十万人規模以上の都市ほど高率となり、地方以上に医療・介護に加え、住民との連携を基盤としたインフォーマルなサポートが必要とされます。これらの現状を踏まえて、都市型の最前線で活躍されています「あんしん電話システム」を広める松戸市の堂垂伸治氏、全国在宅療養支援診療所連絡協議会会長の新田國夫氏、いち早く医師会が動いた板橋区医師会立高

2日目

会場…国際会議室
9時～15時30分

「地域のお茶の間」は、なぜ広がり続ける?

座長

新潟大会 実行委員

まちのお茶の間運動

河田 瑠子

C

会場	国際会議室
13:00	＜市民枠＞ 「地域のお茶の間」は、なぜ広がっている?
	【座長】 河田 瑠子 (つちの茶室・まちの茶の間 ネットワーク推進人)
	【講演】 上野 千鶴子 (フェイス・アクション ネットワーク理事長)
	【座談】 上野 千鶴子 黒岩 卓夫 河田 瑠子
11:35	
13:00	＜市民枠＞ 「地域のお茶の間」は、なぜ広がっている?
	【座長】 河田 瑠子
	【シンポジスト】 大平 芳昭 (有明福祉会理事長)
	北 悟 (医療社会福祉 協議会専務理事)
	坂倉 杏介 (東京歯科大学グローバル ヘルスケア研究科/ 教育研究センター特任講師)
	島崎 敬子 (新潟県立大学)
	鶴山 芳子 (公益財団法人さわかね 福祉財団ふれあいの館理事 推進プロジェクトリーダー)
15:30	

島平訪問看護ステーション管理者の井上多鶴子さん、そしてコミュニティ創りのプロとしてのNPO市民協理事田中尚輝氏を迎え、そこに横たわる問題点の提起、そしてその解決策をお示ししていただきます。医療・介護の資源の豊富な都市型ほど人のつながり

や絆が試されますが、その解決のヒントをご提示いただきます。



今、全国的にだれでも、どこでも気軽に始められる多様な居場所が、燎原の火のごとく広がっています。新潟県では、平成12年長期総合計画で「地域の茶の間」の全県普及を打ち出した経緯もあり、大きな広がりになりました。地域の茶の間の間、いきいきサロン、ふれあいの居場所、コミュニ

ニティカフェ、等名称はさまざまですが、求められているのは、社会構造の変化、多様な価値観の中で、多くの人々が失った人と人とのつながりの再生、そこから生まれる安心社会の再構築でしょう。

この分科会では、午前中に上野千鶴子氏から「おひとり様の老後」の演題でご講演を頂き、その上で、上野千鶴子氏、黒岩卓夫氏、河田瑠子の鼎談、午後には引き続き、新潟県内と全国的に居場所づくりを広げる5人のシンポジストと、会場の皆さんで、孤立死、生きがい、空き家、行政と市民の協働、資金面、まちづくりなど、多様な側面から居場所について話し合います。

多くのみなさまのご参加をお待ちしています。



第19回全国の集い in 新潟 2013 東京プレ大会 開催

認知症医療のゆくえ

～認知症の人を地域・多職種で支えるために～



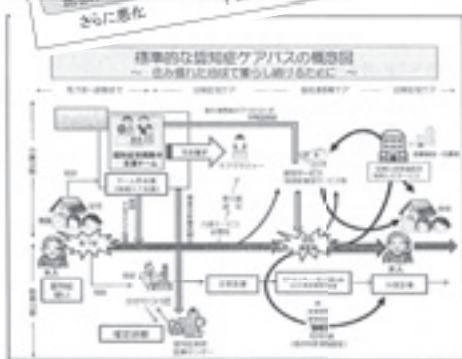
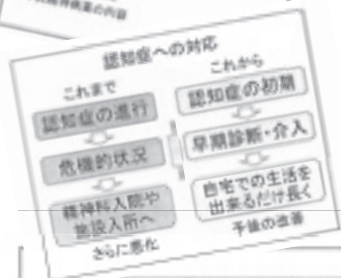
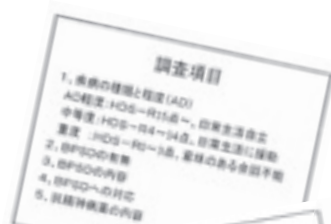
まだまだ北風が冷たく感じた2月16日(土)、東京においてプレ大会が開催されました。

テーマは

「認知症医療のゆくえ」
「認知症の人を地域・多職種で支えるために」

会場は東京駅八重洲口のTKP東京駅ビジネスセンター1号館ホール、満席となる約150名の参加者の中で行われた。

内容は①基調講演と②シンポジウムの2部構成で、このなかで行政、現場両面からの現状分析を聞ける形として参加者にとり大いに参考になるプレ大会となった。内容は以下のとおり



① 基調講演

基調講演を畑恒土事務局長の座長により前厚生労働省老健局長の宮島俊彦氏が『わが国の認知症医療・介護政策の方向性』についての解説を頂いた。



② シンポジウム

苛原会長、中嶋理事の司会により『認知症医療・ケアのゆくえ』をテーマに、各シンポジストそれぞれの立場からの報告を中心に進化した。

内容は以下のとおり
苛原 実氏

BPSD調査報告結果



勝俣 浜子氏

厚労省の立場から

岡崎 和佳子氏

看護師ケア職の立場から

大澤 誠氏

開業医の立場から

遠矢 純一郎氏

認知症初期集中支援チームの試み

理事会報告

理事会報告(2012年度 第3回)

日 時: 2013年2月17日(09:00 ~ 13:00)

場 所: 東京駅八重洲北口 貸会議室プラザ

出席理事: 苛原実、大澤誠、桑原由次、長縄伸幸、藤村淳子、畑恒土、石田一美、福田善晴、中嶋久矩、金井秀樹、井村隆、吉永隆行、中嶋啓子、岡崎和佳子、黒岩卓夫、多湖光宗、金田弘子、森本益雄

欠席理事: 井手下久登、宮坂圭一、洪澤温之、大川延也、太田秀樹、新田國夫、上村伯人、西嶋公子、村山善紀、青木佳之

(いずれも敬称略)

(以下議事録より抜粋、要約)

事務局より:

- 会員数 499名(医師・法人会員 295、事業所会員 53、市民団体会員 4、市民会員 147)
- ホームページの活性化に向けて専属スタッフとしての担当をおいた
- 当NPOのパンフレットのリニューアルを行った
- 会計報告

理事会内容:

- 新潟大会の実行委員会よりの報告があり実践交流会においては事前に発表者と座長が打ち合わせることににより、発表形式を含め魅力ある実践交流会にしたいと等の報告があった
- 全国の集いにおける実践交流会の報告書の発行について、今後の作成方法、管理方法、データベースとしての閲覧機能について確認した
- 新潟大会における理事会企画について、ほぼ内容が決定した、その詳細は次号でお知らせいたします。
- 岡山大会以降の実践交流会においては『発表フォーム』を決め、負担のない、保存・閲覧可能な形として作成することを決定した。今後、この議論を継続する。
- 岡山大会企画会議の経過報告(一部は最終ページの岡山企画会議報告に掲載)
- 来年度の会議日程の確認
内、理事会に関しては以下の日程を確認した

今年度

第5回理事会 2103年8月25日(日) 場所: 東京

来年度

第1回理事会 2013年9月23日(祝) 場所: 新潟

第2回理事会 2013年11月17日(日) 場所: 未定

第3回理事会 2014年2月16日(日) 場所: 未定

第4回理事会 2014年5月25日(日) 場所: 未定

第5回理事会 2014年8月24日(日) 場所: 未定

新規購読のご案内

高齢者の住まいと介護・医療を考える

週刊 高齢者住宅新聞

4月3日特集号 地域包括ケア整備に向けて～全居宅・施設サービス課題研究～

主な特集(80ページ)

- 24時間定期巡回随時対応訪問サービス、全国自治体取り組み状況
- 複合型サービス事例
- 第5期介護保険計画 各居宅系・施設系サービスの新設状況
- 地域包括ケアにおける各居宅・施設サービスの位置づけ
- 地域包括ケアにおける認知症ケア
- 地域包括ケアの先進的事例紹介
- 成功するサービス付き高齢者向け住宅の開設のポイント
- 地域包括ケアと在宅医療 ○療養病床再編の行方
- 特別座談会「地域包括ケアにおける有料老人ホーム・高齢者住宅の役割」 他

購読お申し込みは
右記のいずれかの
方法で

高齢者住宅新聞
媒体概要

- 発行形態 定期購読・タブロイド版(20ページ～)
毎週水曜日発行(月4回)
- 主要読者層 施設運営会社、介護サービス会社、医療法人、社会福祉法人、人材サービス、給食・配食会社、不動産・建設会社、土地所有者、設備機器・建材、システム関連、金融関連、自治体ほか

年間購読料 21,000円(税込・送料込)

TEL **03-3543-6852**
ホームページ <http://koureisha-jutaku.com> 新聞購読申込
メール info@koureisha-jutaku.com
FAX **03-3543-6853** 下記に必要事項をご記入の上FAX下さい。

株式会社高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL:03-3543-6852 FAX:03-3543-6853 <http://www.koureisha-jutaku.com>

Mail Magazine

今回は「風の萌」より会員紹介のコラムの2013.1～2月号を掲載いたしました。

この記事は毎月メールマガジンの記事として皆様に配布されている記事の転載版です。(スタイル等は一部変更しています。)メールマガジンでの配信はもちろん「多くの人に」、「迅速な」、配信が目的で、メールの特徴を発揮出来るものですが、現実としてメール配信されている数は「多くの人に」というにはまだまだ充実を計る必要があります。



当院は昭和43年に開設された自宅併設地域密着型の総合診療科で、二代目院長は外科系救急医療に16年間従事した後、父親から現診療所を継承し現在13年になります。かつて地方都市で2次・3次救急に従事していた頃、治療を終え退院した高齢者が同じ疾患の病状悪化で再入院するケースが多々あり、退院後の医療の継続性とりわけ在宅医療の重要性を痛感し、地域医療の仕組み、役割分担、連携といったことに興味を持ち始め、開業後この問題に深く関

事務局ニュース2013・1

医師・法人会員活動紹介

「医療法人社団 梶山社会 西田医院」 院長 西田伸一

わるようになりまして。2年前からは訪問看護ステーションを併設し常勤看護師4名体制で在宅ケア機能を充実させています。1月25日現在当院の訪問診療患者数は在宅54名、施設71名で、過去一年間の看取り件数は21件です。訪問診療と外来診療の時間比率は2対3ですが、近年訪問診療により多くの時間を必要とするようになってきました。午後の外来を閉めて在宅医療に集中したいところですが、地域に向けて開いた扉を減らすことに抵抗感があり実現できないままです。地域住民からのアクセスの良さと十分な在宅医療機能を維持していくためには、やはり複数医師体制で臨む必要があると考えていますが、経営能力の低さ故なかなか実現できません。在宅医療

に関する24時間体制の確保については、昨年調布市内で30件以上の訪問診療患者数を有する診療所6件(平成24年9月調べ)のうち5件で強化型在宅療養支援診療所を編成しました。5か月経過した今日まで主治医の代行で訪問したケースはなく、結局みな自院で24時間体制を完結しています。しかし、同じ方向性を持つ医療機関同士の連携は情報交換・情報共有ツールとして有効であり同時に患者や医師の安心材料にもなっているとされます。また、当院は地域の在宅療養推進のための社会活動にも多く参画しており、地元医師会の「ちようふ在宅医療相談室」開設、運営を担当しています。現在本事業では在宅医の紹介や在宅医療に関する相談対応を行っていますが、今後、摂食・嚥下機能支援事業や認知症早期支援事業のセンターとして、また在宅人工呼吸器使用者の災害対策の把握集約機関として機能を拡充できるよう活動を続けています。平成20年11月からは調布市内の在宅ケアに

摂食回復支援食



摂食回復支援食とは… 通常の食事を取ることが難しい方の食べる機能と栄養摂取を支援するための食事です。



お問い合わせ・資料請求の連絡先



イーエヌ大塚製薬株式会社

東京都千代田区富士見2-7-2 ステージビルディング13階

お問い合わせ窓口

TEL.03-3515-0170

月曜～金曜 9時～17時(祝祭日、年末年始、お盆を除く)



問系サー
ビスは、
非常に効
率的で、
安全かつ

当院の所在地は、尾道市向島町という、瀬戸内海の小島「しまなみ海道」の起点となつてゐる最初の島です。人口も一万二千人程度で、距離的に限られた地域での訪問看護サービスは、非常に効率的で、安全かつ

医師・法人会員活動紹介 「医療法人 土本医院 土本ファミリークリニック」

理事長・院長 土本 薫

迅速な対応が可能です。その結果「お互いの顔の見える診療・看護・介護」がたやすく出来る環境です。患者さんや親子四代にわたって診療させて貰つてます。私も二代目なのですが、初代の小児科開業医療から全人的診療に転換、法人を設立、事業所として訪問看護ステーション「むかいしま」・居宅介護支援事業所

事務局ニュース2013.2

関わる全ての職種を対象とした自主グループ「調布在宅ケアの輪」を設立し、月一回来院例検討会や講演会を企画し、地域の医療介護福祉の連携に微力ながら貢献しています。地域密着型のかかりつけ医である以上、外来診療だけでなく訪問診療機能を有することは当然であり、医師の間でこれが常識化しなければ地域包

医療法人社団泉社会西田医院
〒182-0014
東京都調布市柴崎1-6-4-13
TEL: 042-483-11350
E-mail: shinchu@nemail.ne.jp
URL: http://www.nsd-m.com

括ケアから医療が抜け落ちてしまします。我々診療所医師は高齢福祉、障害福祉、地域福祉についてもっと学ばべきだと痛感している今日この頃です。

「しおさい」を併設するに至りました。クリニックからの定期訪問診療は平均25人、緊急往診・看取りを含めて10件／月程度です。

現在、職員はタイム職員を含めて、35名おります。無償診療所としては、やや多めです。診療所勤務は8名です。

医院以外の事業所にも専用の事務員を配置させ、ケアマネジャーでもケース1件1件を確実にレベルの高いケアプランで実践出来る環境を整えております。また訪問看護ステーションの管理者にもケアマネジャーの資格を取らせ、介護保険のケアプランのチェックや改定用件などを行い、早く現場にフィードバックできるように、修煉させております。平成12年介護保険施行を契機に、事業所の分離新設と、診療所の新築移転を行いました。「むかいしま」と

「しおさい」をもとあつた自宅併設型診療所空き部屋を利用することで、事業所スペースに関わる初期投資がほぼゼロであったため、思いのほか順調に経営が軌道に乗りまし

た。また、当初より訪問リハビリテーションのため理学療法士を雇用したのも大きな発展要因となっております。入院・入所施設との連携が必須のため、他の施設との連携が必須です。幸い、尾道市には基幹総合病院が3つあり、そのどれも在宅医療に理解があり支援してくれています。2つの事業所利用者の約7割は、主治医が私以外の先生であることも特徴です。入所施設系を自ら手がけず、他の医療介護リソースをお互い利用し合う関係で協働する方針が功を奏しています。

しかし、問題点は後継者です。地域医療における継続性の観点から行くと、一番に弱い部分となりました。そういった面で、この在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワークは、力になってくれると信じ、参加しております。これからよろしくお願ひします。

医療法人土本医院
土本ファミリークリニック
〒722-0073
広島県尾道市向島町5900
TEL: 0848-44-00246
E-mail: ktsuchi@urban.ne.jp

エレクトロニクスで病魔に挑戦

NIHON KOHDEN

わたしたちが、夢の実現をお手伝いいたします。

すべては、医院開業の成功のために。

61A-0294

60 おかげさまで創立60周年
ヘルスケアの未来を拓く

〒161-8560 東京都新宿区西落合1-31-4
創立/1951年8月
事業内容/医用電子機器の開発・製造・販売、医院開業支援

日本光電 医院開業支援 **検索**

<http://www.nihonkohden.co.jp/iryo/practice/>
E-mail: Kaigyo@mb8.nkc.co.jp

全国大会への準備、順調に進んでいます。

「全国の集い in 新潟 2013」実行委員会

実行委員会はそれに先立つ準備委員会(浦佐会議)を各月1回開催のペースで着々と準備が進んでいます。例年なら理事会が主導していく時期ですが今年は逆になっているようです。2月は10日に開催されました。ほとんどのセッションが決定しており準備の速さには驚かされました。

4月からはいよいよ実践交流会の演題募集が始まります、奮ってのご参加をお願いします。写真は2月に行われた新潟実行委員会の様子です。



「全国の集い in 岡山 2014」の企画委員会

既に企画会議は3回目を迎えました。これまではまだまだ2年後という事で気持ちに余裕のある会議でしたが、新年を迎えた最初の会議ということで「いよいよ来年」という気持ちで若干の引き締まりを感じ始めた会議となりました。

大会の日程については、他のイベントの日程を考慮しつつ

期日…2014年9月14・15日
会場…ホテルグランヴィア岡山、岡山コンベンションセンター、マカリアフォーラムの2箇所では決定しました。

次回は4月13日の開催が予定されています。



第19回 全国の集い in 新潟 2013 上越プレ大会の案内

～ 地域で「食べる」をみんなで支えるために ～

キーワードは、地域 在宅 多職種での関わり 摂食嚥下

“在宅ケアを支える診療所・市民とネットワーク”なので、医学知識の勉強というより、参加した市民やケアに関わるいろいろな職種の人が、次の日から「摂食嚥下」に対し、より関心を持ち、元気にケアに向かう事が出来るような会にしたいと思います。

開催日時：平成25年6月2日(日)

12時45分より16時45分まで

会場：リージョンプラザ上越(定員：約500名)

新潟県上越市下門前446-2

Tel.025-544-2122

参加費：1,000円(当日徴収)

主催：NPO 法人在宅ケアを支える診療所・

市民全国ネットワーク(会長 苛原 実)

プログラム(予定)

1. 開会挨拶
2. 基調講演(2題)
3. シンポジウム
4. 特別発言

第19回 全国の集い in 新潟 2013

大会長 黒岩 卓夫 先生

5. 閉会挨拶

風の萌

2013年3月15日発行(第021号)

頒 価：1部50円 会員は無料

◆ 発行 特定非営利活動法人(NPO)
在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク
(略称：在宅ケア全国ネット)

TEL:052-848-8800 FAX:052-848-8801

http://www.home-care.ne.jp/net/ E-mail:zenkokunet@home-care.ne.jp
〒458-0007 愛知県名古屋緑区簗山3-119 カーサフクシマC-32号

◆ 編集「風の萌」編集委員

編集後記

昨年末から今年にかけて、新潟へも出かけたためか、ことさら冬を味わった感があります。いつものことですが年が明けると全国大会がさらに身近に感じるようになってきます。

遅くなりましたが、今年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。(T.Y.)